

住民らが「新しい惣村づくり」

新春風情

いまま東近江市が面白い。地域が抱える課題を自ら地域で解決しようとする動きが、ヒト・モノ・カネを地域内で循環させるべく、地域が支え合っている。例えば、誰かのために「おまわり」のサービスを展開している。例として「おまわり」のサービスは、今年4月に同市(旧栗東町)小倉町でオープンする「あいうふくしモール」もこの一つ。そこで東近江市、分野を越えて繋がり、新しい価値を見出している方々にお話を聞いた。

「患者さんの思いは地域で最後まで」
 「暮らしや生業を支える福祉モール」
 「直売所はお年寄りの団らんの場」
 「薪割り通して身につける生きる力」



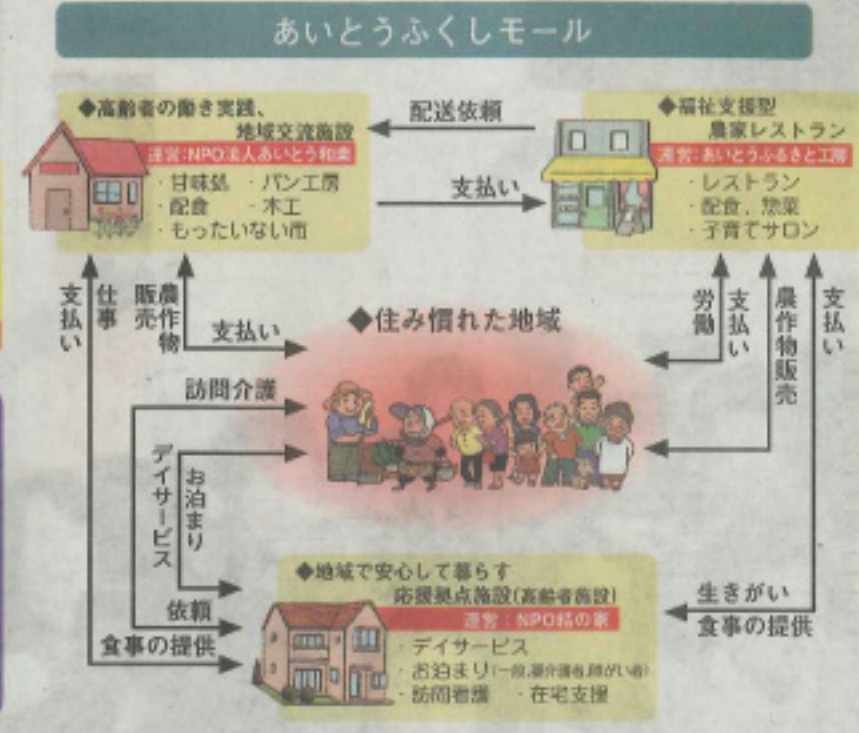
嘉田由紀子 (かた ゆきこ) 氏
 県立琵琶湖博物館総括学芸員、京都精華大学教授を経て、平成18年に滋賀県知事に初当選。22年に再選。昨年11月、日本未来の党を結成し党首に就く。62歳。

東近江が面白い
 山口 本日はお集まり願った皆さまはそれぞれ、地域の課題を夢のある活動の発端で、生業(なりわい)にしながら解決していく取組をされておられる方が多いです。まずは、住み慣れた家で長期を迎える「在宅看取り」に取り組んでおられる医師の野村さんからお話をうかがえますか。

野村 わたしは十数年の間、東近江市の栗東地区で、葉の花エロプロジェクト(注)に仕事とNPO活動を通じて関わってまいりました。このプロジェクトは、食とエネルギーの地産地消を通じて地域の自立を図ろうとするものです。

山口 「安心して住み慣れたところで暮らしていただく」という花戸さんのお話は、野村さんの福祉モールの構想とも繋がっていますね。

野村 わたしは十数年の間、東近江市の栗東地区で、葉の花エロプロジェクト(注)に仕事とNPO活動を通じて関わってまいりました。このプロジェクトは、食とエネルギーの地産地消を通じて地域の自立を図ろうとするものです。



るか考えた時に、その患者さんを中心にして、われわれ医療者を始め、介護者、行政、地域がみんな高齢者や認知症の方をいかに支えていくか、という考え方に変わっていったのです。

最終的に棲み慣れた地域で、そのご本人も家族も地域の人も「できれば長期まで、この地域で過ごしたい」との思いを持っておられますから、それを支えていくな結果、在宅看取りの形になっていきました。

これは、フォトジャーナリストの國森康弘さんの写真本(台)でも紹介されている命のパトンであったり、お互いを支え合おうとあったり、それがまた当事者だけでなく、その地域の次の世代や、子どもたちにも受け継がれていこうとされているんです。

花戸さんのように看取りを行っているお医者さんをもっと増やそうと、取り組んでいるところなんです。

山口 「それは医療費の抑制にもなりますね。」

山口 「安心して住み慣れたところで暮らしていただく」という花戸さんのお話は、野村さんの福祉モールの構想とも繋がっていますね。

す。一つは、高齢者の介護です。デイサービスや訪問看護ステーションで、宿泊の機能があります。運営は、NPO法人「結の家」があたりです。二つ目は、地域の特色を生かした甘味処や、パン工房、木工所などで、高齢者や障がいを持った人たちの働く場です。NPO法人「あいうふくし」が運営します。もう一つは、地域の食材を活用して食を提供する農家レストランで、「あいうふくし」が運営しています。

山口 植田さんの取組も、お年寄りの生業を生産者から支えるものですね。

植田 わたしは、「道の駅東近江市あいうふくしセンター」の一角にシモン(東近江市栗東町)の一角にあい、あいうふくし生業を生産者から支えるものですね。

山口 美知子 (やまぐち みちこ) 氏
 県職員を経て、平成24年より東近江市職員。現在、東近江市企画部の分権改革課主任、滋賀県地方自治研究センター理事、滋賀県地域振興システム協議会 (Kikito) 副事務局長。40歳。

山口 美知子 (やまぐち みちこ) 氏
 県職員を経て、平成24年より東近江市職員。現在、東近江市企画部の分権改革課主任、滋賀県地方自治研究センター理事、滋賀県地域振興システム協議会 (Kikito) 副事務局長。40歳。

表をしていますが、この直売所は、十九年ほど前に立ちあげたもので、当時、お年寄りから「小遣い稼ぎの場所がない」との声があり、それなら地元で新鮮野菜などを調達してあげたい。この直売所は、



在宅医療を支える花戸貴司医師の営みなどを通して、看取りの現場を、写真家の國森康弘さんが情感豊かに活写した写真絵本「いのちをつなぐ『みとらびと』」(農山漁村文化協会刊、定価・消費税込みで全4巻セット7,560円)

山口 ふくしモールでは薪を使ったりしていますが、野々村さん、お新の事業に関わっていらっしゃいます。

野々村 「東近江園芸働き・暮らし」

山口 四人の皆さんは共通して、時代認識と地域性を感じました。かつて右肩上がりの経済発展を遂げていたころは、新しいものをどんどん取り入れていきました。

山口 貴さんが自分の役割をちょっとはみ出して活動されているおかげで、いろいろなことが繋がっているような気がします。野田さんは、どのように受け止めておられましたか。

野田 四人の皆さんは共通して、時代認識と地域性を感じました。かつて右肩上がりの経済発展を遂げていたころは、新しいものをどんどん取り入れていきました。



花戸 貴司 (はなだ たかし) 氏
 自治医科大学卒業。医学博士、日本小児科学会認定専門医、日本プライマリ・ケア学会認定指導医、滋賀医科大学非常勤講師。平成12年より東近江市水原寺診療所所長。42歳。

例えは、滋賀省から東近江市が受託した事業に、山のナラ枯れの本を薪ストーブの薪にして、地域のエネルギーに変えていくのがありました。同事業は福祉ではなく環境分野でしたが、わたしたちは薪割りの仕事を請け負いました。これは、地元で薪ストーブを開発・販売している新遊遊(東近江市野江町、村山英志代表)さんが買い取ったナラ枯れなどの間伐材を、働く準備をしている方が地元若者のサポートを受けながら薪割りをやる作業です。

実際に薪割りをやってみると、薪に大小の差があっても、大きな失敗がないので仕事に対して自信を持つことができました。薪割りを通じて生きる力を学んで当センターを卒業し、地元企業に就職されていきます。特別なものでなく、身近な地域の循環システムの中に、障がいのあるひとたちの働き場があることが非常に重要なんです。

山口 貴さんが自分の役割をちょっとはみ出して活動されているおかげで、いろいろなことが繋がっているような気がします。野田さんは、どのように受け止めておられましたか。

野田 四人の皆さんは共通して、時代認識と地域性を感じました。かつて右肩上がりの経済発展を遂げていたころは、新しいものをどんどん取り入れていきました。

多様な地域資源を組み合わせて



4 月オープンを目指して東近江市小倉町に建設中の「あいとうふくらモール」。総事業費は 1 億 6 千万円で、うち 9 千万円は厚生労働省からの交付金、残る 7 千万円は各事業者が負担する。



富田正敏(とみた・まさとし)氏
平成 14 年、滋賀報知新聞社社長。19 年から八日市商工会議所副会長。現在、(社)滋賀県新聞連盟代表理事、(社)日本地方新聞協会会長。63 歳。

しかし、低成長のいまは、質的にならなければならない。望ましいものなのか、あるもの探しをして、それを生かそうという時代になってきている。それが皆さんの共通の時代認識だと思います。もう一つは、地域性です。植田さんの直売所には、二百七十人も人が自分で作った農作物を持ってこられる。その仕組みは、きつ

と市町合併で広がったのだと思います。また、野々村さんのふくしモールも、野々村さんの新割りの就労も、地域性を生かす意味で、東近江には大変な潜在力があると感心させられました。また、暮らしに根差した花戸さんのようなお医者さんが生まれるのも、永源寺の地域性だと思います。八十歳、九十歳の高齢の方が「花戸先生、はよ迎えに来てほしいわ。阿弥陀さん、待たはるし」と話されるという。それって現代的でない、少し前近代的な死生観ですよ。これなんか、東近江らしい。

富田 地域性のお話ですが、野々村さんのところでは、新割りの就労で成功されている。これも東近江市に豊かな自然があるからできるわけですよ。草津市では、こんなことはできません。先日、新ストロップの開拓・販売をされている村山さんを訪問する機会がありました。新を配運するのに手間がかかり、なかなか市場

山口 山口とつるんで、なにか行政に注文はありますか。花戸 実際には地域の人の話をお聞きして、医療を提供するだけだけを求められているのではない。地域でその人の「最期まで」を生活する、それが求められている価値観だと思います。家族の方も「最後は病院で預けられたい」という、これまでの価値観ではなく、地域全体として「自分で食べられたい」という。年々認知症になってこの地域で最期まで生活したいという価値観を共有できることが大事なんです。そのような文化や価値観を共有する役割を行政が担って、われわれ医療者が参画できる場をつくっていただければいい。

山口 山口とつるんで、なにか行政に注文はありますか。花戸 実際には地域の人の話をお聞きして、医療を提供するだけだけを求められているのではない。地域でその人の「最期まで」を生活する、それが求められている価値観だと思います。家族の方も「最後は病院で預けられたい」という、これまでの価値観ではなく、地域全体として「自分で食べられたい」という。年々認知症になってこの地域で最期まで生活したいという価値観を共有できることが大事なんです。そのような文化や価値観を共有する役割を行政が担って、われわれ医療者が参画できる場をつくっていただければいい。



野村正次(のむら・まさつぐ)氏
愛東町役場勤務後に、東近江市の分権改革課長を経て退職。NPO 法人愛のまちエゴ倶楽部副理事長。(株)あいとうふくらと工務代表取締役。56 歳。

山口 山口とつるんで、なにか行政に注文はありますか。花戸 実際には地域の人の話をお聞きして、医療を提供するだけだけを求められているのではない。地域でその人の「最期まで」を生活する、それが求められている価値観だと思います。家族の方も「最後は病院で預けられたい」という、これまでの価値観ではなく、地域全体として「自分で食べられたい」という。年々認知症になってこの地域で最期まで生活したいという価値観を共有できることが大事なんです。そのような文化や価値観を共有する役割を行政が担って、われわれ医療者が参画できる場をつくっていただければいい。

山口 「地域に息づく価値観の共有が大切」
嘉田 「あるもの探りで地域を生かす時代」
富田 「もっと官民一体で地域課題解決を」

野々村 安心して暮らすことを支えるために、行政がいろんな制度をつくっても、制度から外れる隙間も市にどうもプラスと考えます。(すまじ)が必ず出てきます。そこについては、なかなか行政では対応できない。このためにも、頭のない関係の中で、様々な機能が連携して、支える仕組みをつくっていかないと必要です。



野々村光子(のむら・みつこ)氏
精神障害者作業所(現通所授産施設)、京都府志賀町相模を営む。平成 18 年から、東近江地域働き・暮らし応援センターに勤務。精神保健福祉士。現在、同応援センター Tekito センター長兼支援ワーカー。37 歳。

山口 本日は、どうもありがとうございました。(注) 菜の花エゴプロジェクトは、菜の花を栽培し、なたねから油を絞り、油かすは肥料や飼料にする一方で、食用に利用したなたね油を回収し、軽油代替燃料などに再生利用するもので、資源循環型社会の形成を目指す取り組みの一つ。

山口 山口とつるんで、なにか行政に注文はありますか。花戸 実際には地域の人の話をお聞きして、医療を提供するだけだけを求められているのではない。地域でその人の「最期まで」を生活する、それが求められている価値観だと思います。家族の方も「最後は病院で預けられたい」という、これまでの価値観ではなく、地域全体として「自分で食べられたい」という。年々認知症になってこの地域で最期まで生活したいという価値観を共有できることが大事なんです。そのような文化や価値観を共有する役割を行政が担って、われわれ医療者が参画できる場をつくっていただければいい。

山口 山口とつるんで、なにか行政に注文はありますか。花戸 実際には地域の人の話をお聞きして、医療を提供するだけだけを求められているのではない。地域でその人の「最期まで」を生活する、それが求められている価値観だと思います。家族の方も「最後は病院で預けられたい」という、これまでの価値観ではなく、地域全体として「自分で食べられたい」という。年々認知症になってこの地域で最期まで生活したいという価値観を共有できることが大事なんです。そのような文化や価値観を共有する役割を行政が担って、われわれ医療者が参画できる場をつくっていただければいい。



植田義雄(うへだ・よしお)氏
55 歳から専業農家となり、ブドウ園等を経営。現在、あいとう直売所運営協議会会長、東近江水田経営協議会会長などを兼務。72 歳。